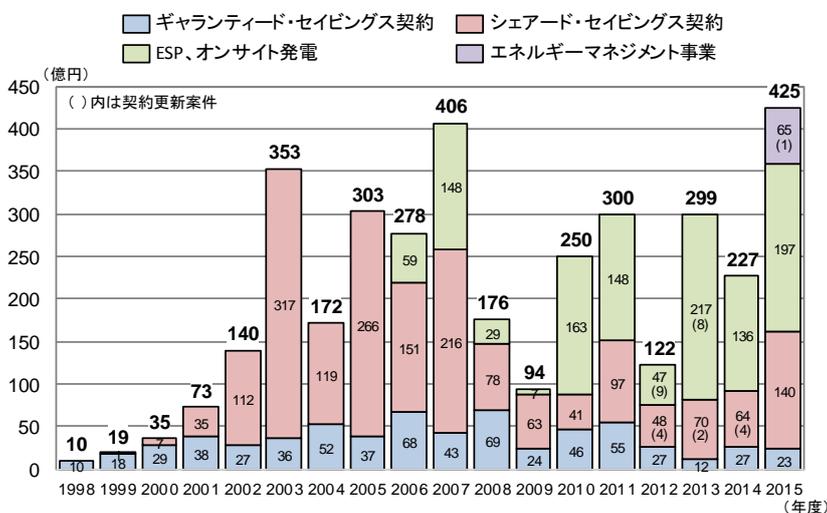


ESCO・エネルギー管理事業の市場動向（市場規模・対象施設・採用技術）

2017年7月 一般社団法人ESCO・エネルギー管理推進協議会

※本調査結果は、当協議会会員の情報のみを基に作成しております。

ESCO・エネルギー管理事業の市場規模の推移



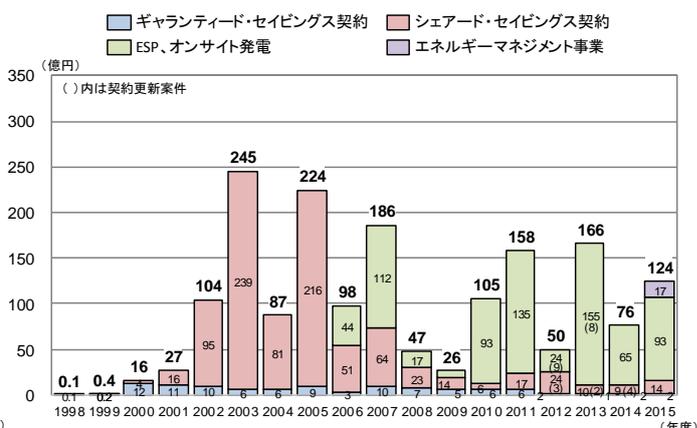
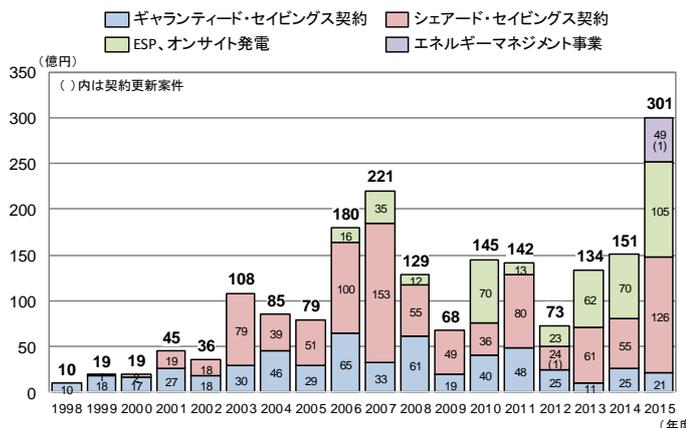
ESCO事業は2008～2009年度に経済の低迷により事業規模は大きく減衰し、2009年度に100億円を割るまで縮小しました。

その後、2010年度以降ESP・オンサイト発電が大きく増加、2011年度には300億円へと回復しました。2012年度は一旦減少したものの、2013年度にはESP・オンサイト発電、等が産業部門で過去最高を記録し、シェアード・セービング契約も増加しました。2014年度は一端減少しましたが、2015年度は業務・産業部門のシェアード・セービング契約、「ESP・オンサイト発電」が大幅に増加し、エネルギー管理事業を除いても360億円と大きく回復しています。エネルギー管理の65億円を加えると過去最高の425億円を記録しました。

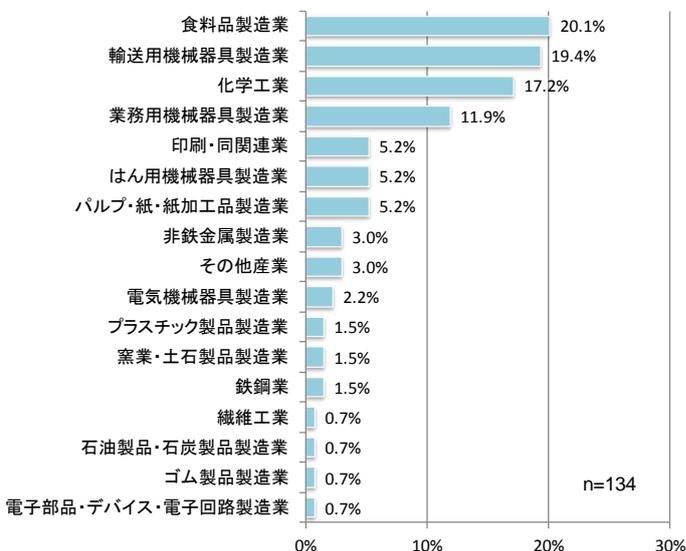
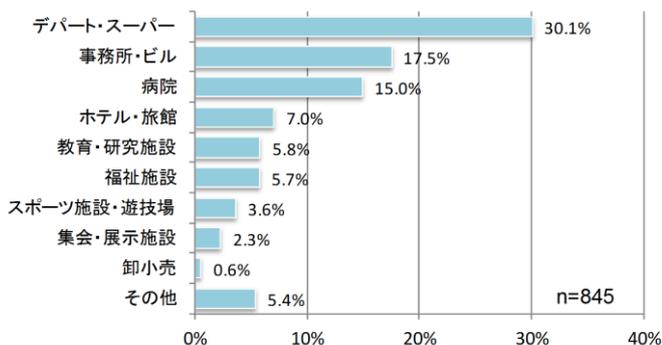
※1 2006年度調査からはESCOのパフォーマンス契約に含まれていた「ESP・オンサイト発電」を別項目として調査、集計しています。

※2 2015年度調査からエネルギー管理事業の調査を追加しています。

ESCO・エネルギー管理事業の契約別受注金額（左：業務用、右：産業用）



ESCO事業における対象施設（左：業務用、右：産業用）

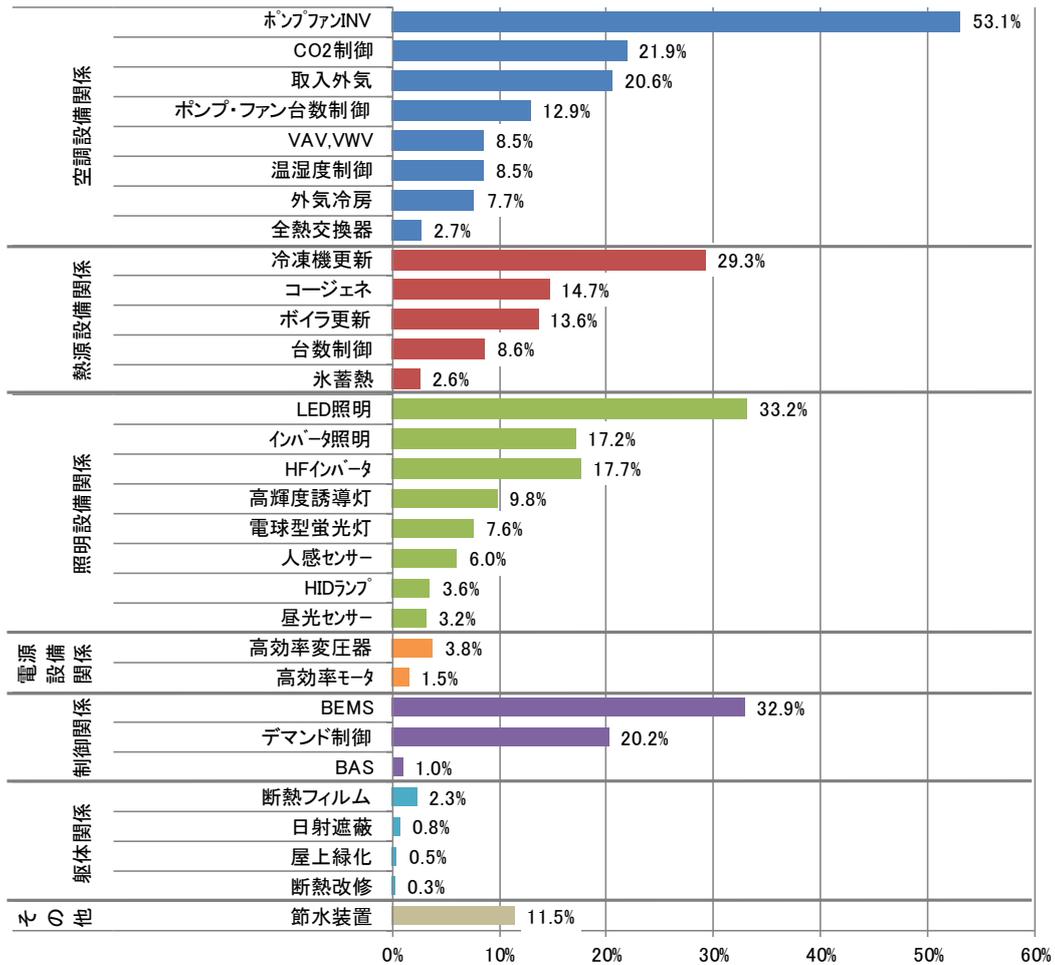


2001年～2015年度の15年間に実施されたESCO事業導入対象施設は、業務用ではデパート・スーパーなどの商業施設が最も多く、次に事務所及び病院でした。産業用では、食料品製造業や輸送用機器製造業、化学工業などで多く導入されています。

ESCO 事業で採用されている省エネ技術

(2001年～2015年度の事業を対象に集計)

業務用



産業用

